

杉戸町立杉戸中学校 令和4年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		学校関係者評価		
				評価	達成状況(成果・課題)		改善策	
確かな学力	基礎基本を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」の徹底により、授業規律の確立と定着。 朝読書の完全実施 小テストや単元テストの実施により、基礎基本の定着と家庭学習の定着を図る。 個に応じた補習学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「授業の約束10か条」AB評価9割(ABCD 4段階評価) 朝読書の実施100% 授業内におこなうテスト以外に学年実施の教科テストを3教科実施。 定期テスト前に各学年で実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の約束10か条、朝読書 達成率9割以上。 定期テスト前の補習については全学年で実施することができた。 家庭学習の取組については、同じ生徒で昨年同時期と比較すると「取り組んでいる」と前向きな回答が68%から74%に伸びている。 特に数学科の授業において、教育支援員とともに学習支援をする体制を整えた。 本時の課題の設定はできている。振り返りについては不十分な教科があるので、その在り方や確かな確保が必要である。 若手職員を中心にICTを活用する教員が増え、教員間で率先して情報交換する姿が見られた。また今年度は、その活用もより効果的となり、生徒の学力向上に結び付く実践が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書については時間内に集中させること、本を朝の会の前に準備しておくこと、宿題などをさせないことを担任が徹底させること。また、学年職員が巡回し、指導にあたりたい。 定期テスト前の放課後の補習や朝勉強など、各学年工夫をしながら生徒の学力向上につとめた。ICTをさらに活用し、個に応じた課題の設定や自宅での活用も含め、一層の学力向上につなげていく。 授業の振り返りについては、十分な時間の確保はもちろんだが、振り返りの仕方(生徒の言葉で、記入させる場合は条件をつけて など)を校内研修で扱っていきたい。 ICTの活用が増したが、効果的な活用という点では「どちらかといえば当てはまらない」の回答が教員40%、保護者30%とあり、有効な活用法、活用場面を追究していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 機械は教育の手段であり、使用することを目的とするには、本来の目指すものとずれていると思う。時代に流されるだけでなく、教育の本質を見失わずにいてもらいたい。 家庭のwifi環境は、どの程度整っているのでしょうか? ICT活用については、やはり教員の活用能力に課題があるのでしょうか? 授業の約束等、従来の取組を大切にしながらもICTという新しい手法も着実に定着しつつあるようだ。 家庭学習については、学年が進むにつれて意識の向上が見られ望ましい傾向だ。 課題設定については、今後、より生徒が自分事として意識するような工夫があるとうい。
	学習指導を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> 杉戸町授業スタンダードを基にした効果的な授業の実践。(※明確な課題設定と振り返りを重点とする) 県学力学習状況調査の結果の分析から指導力向上に向けた教科会の実施 リーディングスキルを高める取組 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な本時の課題設定と振り返り実施100% 教科毎に県学調の結果を分析し、課題、改善策を検討し実行する。総合学力調査で成果をみる。 校内研修の実施とリーディングスキルテストの実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学会を通じて杉戸中が抱えている課題を確認し、足並みを揃えることができた。生徒指導と教育相談については隔週の実施のため情報交換が遅れることもあり、課題である。 いじめアンケートは毎月実施し、早期発見・早期対応ができた。 長欠生徒35名(うち不登校23名)。数字だけを見ると昨年度から横ばいで推移している。相談室や適応指導教室に通えるようになる等明るい兆しも見られた。 学校独自の「スマイル賞」、生徒会による「ありがとうの木」、人権集会の実施など年間を通じた善行賞を実施することができた。また、道徳については昨年同様に学年職員で全クラスを受け持ち、行事前は担任による共通題材での授業で充実させることができた。また、学級通信において道徳の話題を積極的に扱い、各家庭に道徳授業の様子を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の生徒指導及び教育相談担当の教員が日常的に担任への声かけ、クラスを巡回しての生徒への声かけをおこなっていく。朝読書や昼休みの時間等を通じて巡回する習慣をつきたい。担任任せになることなく、学年全体で関わりを持つ体制づくりをより強化していく。 いじめアンケートにより早期発見、早期対応ができたが、一方でSNSによるトラブルや日常生活における人間関係のトラブルが数件見られた。生徒だけでなく、保護者にもSNSのトラブルについて今後も未然防止に努めるとともに共通認識を持ってもらえる方策を工夫していきたい。 長欠傾向にある生徒の対応における担任の負担も考え、教育相談担当及び副担任とより一層の連携した対応を心がけていく。また、他機関との適切な連携体制を整えていく。 生活アンケートでは全項目で9割以上の生徒が達成している。来年度は対面での集会を徐々に再開させ、生徒が直接呼びかけられる活動を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子も日々変化していく中で、一定の状態を維持できていることは悪いことではなく、内容的には改善しているといえる。 SNSも含めインターネットの得失については、重大事案には注意しながらも、長欠生徒のサポート等の方向性も検討してはどうか。 アンケート結果で、行事への取組の評価が生徒は高いものの、保護者もそうでもないのはなぜなのだろうか。 いわゆる「いい先生」は話をよく聞いてくれる。そのことが長時間労働に繋がっている実態がある。答えの見えない働き方改革である。 杉戸町の部活動地域移行はどうなっているのだろうか。 SNSトラブルは高校でも課題となっている。保護者の協力は必須であろう。 毎月実施のいじめアンケートや道徳の授業の充実はいいと思う。 「衣食足りて礼節を知る」との言葉通り、生活・心の余裕、豊かさが生徒に約束されるものであってほしい。生徒には自分の権利としての学力・生活の保証を知ってほしい。
豊かな心	基本的な生活習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> めざす生徒像「時を守り、場を清め、礼を正す生徒」「当たり前」の育成に向けた学年・学級指導 「生活の約束10か条」による生活習慣の確立・定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級指導の状況 主任会、生徒指導部を通じた情報交換、指導体制の統一 生徒アンケート「生活の約束10か条」AB評価9割(ABCD 4段階評価) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学会を通じて杉戸中が抱えている課題を確認し、足並みを揃えることができた。生徒指導と教育相談については隔週の実施のため情報交換が遅れることもあり、課題である。 いじめアンケートは毎月実施し、早期発見・早期対応ができた。 長欠生徒35名(うち不登校23名)。数字だけを見ると昨年度から横ばいで推移している。相談室や適応指導教室に通えるようになる等明るい兆しも見られた。 学校独自の「スマイル賞」、生徒会による「ありがとうの木」、人権集会の実施など年間を通じた善行賞を実施することができた。また、道徳については昨年同様に学年職員で全クラスを受け持ち、行事前は担任による共通題材での授業で充実させることができた。また、学級通信において道徳の話題を積極的に扱い、各家庭に道徳授業の様子を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の生徒指導及び教育相談担当の教員が日常的に担任への声かけ、クラスを巡回しての生徒への声かけをおこなっていく。朝読書や昼休みの時間等を通じて巡回する習慣をつきたい。担任任せになることなく、学年全体で関わりを持つ体制づくりをより強化していく。 いじめアンケートにより早期発見、早期対応ができたが、一方でSNSによるトラブルや日常生活における人間関係のトラブルが数件見られた。生徒だけでなく、保護者にもSNSのトラブルについて今後も未然防止に努めるとともに共通認識を持ってもらえる方策を工夫していきたい。 長欠傾向にある生徒の対応における担任の負担も考え、教育相談担当及び副担任とより一層の連携した対応を心がけていく。また、他機関との適切な連携体制を整えていく。 生活アンケートでは全項目で9割以上の生徒が達成している。来年度は対面での集会を徐々に再開させ、生徒が直接呼びかけられる活動を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子も日々変化していく中で、一定の状態を維持できていることは悪いことではなく、内容的には改善しているといえる。 SNSも含めインターネットの得失については、重大事案には注意しながらも、長欠生徒のサポート等の方向性も検討してはどうか。 アンケート結果で、行事への取組の評価が生徒は高いものの、保護者もそうでもないのはなぜなのだろうか。 いわゆる「いい先生」は話をよく聞いてくれる。そのことが長時間労働に繋がっている実態がある。答えの見えない働き方改革である。 杉戸町の部活動地域移行はどうなっているのだろうか。 SNSトラブルは高校でも課題となっている。保護者の協力は必須であろう。 毎月実施のいじめアンケートや道徳の授業の充実はいいと思う。 「衣食足りて礼節を知る」との言葉通り、生活・心の余裕、豊かさが生徒に約束されるものであってほしい。生徒には自分の権利としての学力・生活の保証を知ってほしい。
	生徒の人権尊重意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 心の居場所がある学年学級経営(※ローテーション方式による道徳授業の展開と生徒の道徳性の実感把握により道徳的実践力を高める。 学校、学年での不登校生徒への対応、連携。 支援籍学習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめのない学校生活を送るためのアンケートの毎月実施→いじめ認知率の増加 不登校生徒の減少(R3年度 30人) 道徳教育の充実 スマイル賞の受賞状況 生徒会による人権を考える活動を企画、実施 共生社会に向けた意識 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学会を通じて杉戸中が抱えている課題を確認し、足並みを揃えることができた。生徒指導と教育相談については隔週の実施のため情報交換が遅れることもあり、課題である。 いじめアンケートは毎月実施し、早期発見・早期対応ができた。 長欠生徒35名(うち不登校23名)。数字だけを見ると昨年度から横ばいで推移している。相談室や適応指導教室に通えるようになる等明るい兆しも見られた。 学校独自の「スマイル賞」、生徒会による「ありがとうの木」、人権集会の実施など年間を通じた善行賞を実施することができた。また、道徳については昨年同様に学年職員で全クラスを受け持ち、行事前は担任による共通題材での授業で充実させることができた。また、学級通信において道徳の話題を積極的に扱い、各家庭に道徳授業の様子を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の生徒指導及び教育相談担当の教員が日常的に担任への声かけ、クラスを巡回しての生徒への声かけをおこなっていく。朝読書や昼休みの時間等を通じて巡回する習慣をつきたい。担任任せになることなく、学年全体で関わりを持つ体制づくりをより強化していく。 いじめアンケートにより早期発見、早期対応ができたが、一方でSNSによるトラブルや日常生活における人間関係のトラブルが数件見られた。生徒だけでなく、保護者にもSNSのトラブルについて今後も未然防止に努めるとともに共通認識を持ってもらえる方策を工夫していきたい。 長欠傾向にある生徒の対応における担任の負担も考え、教育相談担当及び副担任とより一層の連携した対応を心がけていく。また、他機関との適切な連携体制を整えていく。 生活アンケートでは全項目で9割以上の生徒が達成している。来年度は対面での集会を徐々に再開させ、生徒が直接呼びかけられる活動を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子も日々変化していく中で、一定の状態を維持できていることは悪いことではなく、内容的には改善しているといえる。 SNSも含めインターネットの得失については、重大事案には注意しながらも、長欠生徒のサポート等の方向性も検討してはどうか。 アンケート結果で、行事への取組の評価が生徒は高いものの、保護者もそうでもないのはなぜなのだろうか。 いわゆる「いい先生」は話をよく聞いてくれる。そのことが長時間労働に繋がっている実態がある。答えの見えない働き方改革である。 杉戸町の部活動地域移行はどうなっているのだろうか。 SNSトラブルは高校でも課題となっている。保護者の協力は必須であろう。 毎月実施のいじめアンケートや道徳の授業の充実はいいと思う。 「衣食足りて礼節を知る」との言葉通り、生活・心の余裕、豊かさが生徒に約束されるものであってほしい。生徒には自分の権利としての学力・生活の保証を知ってほしい。
健やかな体	安心・安全な学習環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通ルール遵守 自他の命を大切に安全指導の充実 PTAによる安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故ゼロ 安全教室の実施 感染症防止の生活様式の定着 教職員による立哨指導 安全マップの効果的活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故1件(12月末現在) 4月の安全指導の実施とPTAの立哨指導のアンケートの中で記入いただいた危険箇所をまとめたものを配付し各学級で指導をおこなった。 毎朝の学年職員による立哨指導を年間を通して実施することができた。 う歯治療率90%(12月末現在)3学期も継続して指導 部活動は町、及び学校の基本方針に則り、全ての部活で徹底することができた。 感染症予防は、引き続き教員の意識の高い危機レベルで対応する必要がある。 新体力テストでは8種目中、県平均を超える種目が1年生では男女でそれぞれ4種目と2種目に対して、3年では男女ともに5種目と増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校のマナーについては毎年多くの心配の声が寄せられているが、今年度は比較的少なかった。学級で指導するだけでなく、教員が直接現場に行つて声かけをしていく。 感染症対策は100%の実施が求められるため、「どちらかといえばできていない」「できていない」の合計が保護者7.3%、生徒6%に対して教職員は0%となっている。より意識を高め、徹底することが課題である。 PTAによる登校安全指導に加え、教職員の立哨指導を来年度は計画的に実施したい。 新体力テストについては反復横跳び、20メートルシャトルラン、持久走が課題である。今後は体づくり運動で「敏捷性」を高める運動を意図的に多く取り入れていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の変更については、利便が上回ったようで良い決断だったと思う。今後も教員負担を増やさない視点と、生徒の安全利便の向上の視点を大切に、更なる検討を願う。 部活は相変わらずの好成績で今後も楽しみである一方、教員の負担は減らす(なくす)方策を急いでほしい。 通学路については、生徒(家庭)の選択で踏切を通行可としたことは、生徒の負担減にもつながりよかった。保護者からもとても嬉しいとの声を聞いた。 感染症は発症時の対応に重点を移してもよいのではないかと。 健やかさの規定は難しく、個人差・国籍・その他で差の出るものだろう。評価項目の再精査を希望する。
	健康意識と体力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 歯磨き指導や治療動喜等に関する治療の推奨 基本的な生活習慣の習得指導(就寝起床時刻、朝食の摂取等) 体力向上及び健康教育 休養を確保した部活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> う歯治療率90% 生徒アンケート 体育や部活動における基礎体力の向上 部活動の町の基本方針に則った活動状況 感染症予防の生活様式の定着 	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故1件(12月末現在) 4月の安全指導の実施とPTAの立哨指導のアンケートの中で記入いただいた危険箇所をまとめたものを配付し各学級で指導をおこなった。 毎朝の学年職員による立哨指導を年間を通して実施することができた。 う歯治療率90%(12月末現在)3学期も継続して指導 部活動は町、及び学校の基本方針に則り、全ての部活で徹底することができた。 感染症予防は、引き続き教員の意識の高い危機レベルで対応する必要がある。 新体力テストでは8種目中、県平均を超える種目が1年生では男女でそれぞれ4種目と2種目に対して、3年では男女ともに5種目と増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校のマナーについては毎年多くの心配の声が寄せられているが、今年度は比較的少なかった。学級で指導するだけでなく、教員が直接現場に行つて声かけをしていく。 感染症対策は100%の実施が求められるため、「どちらかといえばできていない」「できていない」の合計が保護者7.3%、生徒6%に対して教職員は0%となっている。より意識を高め、徹底することが課題である。 PTAによる登校安全指導に加え、教職員の立哨指導を来年度は計画的に実施したい。 新体力テストについては反復横跳び、20メートルシャトルラン、持久走が課題である。今後は体づくり運動で「敏捷性」を高める運動を意図的に多く取り入れていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 通学路の変更については、利便が上回ったようで良い決断だったと思う。今後も教員負担を増やさない視点と、生徒の安全利便の向上の視点を大切に、更なる検討を願う。 部活は相変わらずの好成績で今後も楽しみである一方、教員の負担は減らす(なくす)方策を急いでほしい。 通学路については、生徒(家庭)の選択で踏切を通行可としたことは、生徒の負担減にもつながりよかった。保護者からもとても嬉しいとの声を聞いた。 感染症は発症時の対応に重点を移してもよいのではないかと。 健やかさの規定は難しく、個人差・国籍・その他で差の出るものだろう。評価項目の再精査を希望する。
学校独自	家庭・地域・関係機関との連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学年だより、学級だよりの発行、HPの定期更新による情報発信 地域の人材を活用した教育活動の実施 PTA活動の活動内容の精選 不登校対応、健全育成における関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の発行状況とHPの毎月定期更新(管理職による添削、保護者へのアンケートの情報発信で3,5以上) キャリア教育における地域人材の活用 PTA組織の見直し 関係機関の利用状況と生徒の変容 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りの発行とHP更新は、保護者の82%が便りやメール配信で学校の様子を知ることができたことと回答していることから効果があったと思われる。 キャリア教育では地域の人材にゲストティーチャーとしてご講義いただいた。その中には学年の保護者様もいらして、広く杉戸中のためにご協力いただいた。 PTA活動は組織の見直しの成果があった。特に除草作業において多くの協力を得ることができ、環境美化に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行やHP更新については、昨年度の保護者88%の前向きな回答から微減となってしまった。HPの更新頻度や内容の充実を再度検討していく。 キャリア教育では昨年度より大幅増の13の事業所、計20名以上の方に協力をお願いした。その中には学年の保護者様もいらして、広く杉戸中のためにご協力いただいた。 PTA活動については改革後の体制が整ってきたので、引き続きより良い活動を検討・推進していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度メール配信による情報提供があり、流れや動きがわかったのだが、今年はなかった。また「HP」では、学校の沿革は途中で終わり、学校だよりは入っていない。対応が難しいなら、ボランティアに任せるのもありか。 PTA本部役員のもとに、生徒一人につき年1回以上参加することとした点については、現実にあったものでよかった。本部役員等の内容が増えていることと思う。学校運営協議会等から何らかの支援が必要かと思う。 今後、ICTの活用が一層進むだろう。早めの準備を。 コロナ禍において心を尽くして教育して下さった学校、先生方に心より感謝します。